

“それでも町で生きていく”

～福祉型その他職種アウトリーチ支援を考える～

中国ブロック
フォローアップ
研修会 in 岩国
2018.3.10 (土)
10:00 開会 / 16:00 閉会

【会場】
シンフォニア岩国 大会議室



■ 講師紹介

◆ 森川 すいめい氏 (みどりの杜クリニック)

精神科医。鍼灸師。阪神淡路大震災時に支援活動を行う。2001年より「ホームレス」への支援活動を開始、NPO法人TENOHASI発足メンバーとなる。2008年に日本で初めて「ホームレス」には精神疾患を有する人たちが4-6割、知的障害を有する人が約3割いることを明らかにし、支援活動を展開。2009年世界の医療団東京プロジェクト代表医師就任。

2011年より東日本大震災でのケア活動を続ける。40カ国以上バックパッカーとして旅した。

著書に、全国の「自殺希少地域」についてフィールドワークし、考察された『その島のひとたちは、ひとの話をきかないー精神科医、「自殺希少地域」に行くー』がある。

◆ 渡辺 乾氏 (訪問看護ステーションKAZOC)

作業療法士。精神保健福祉士。都内の精神科病院に就職し、日本の精神科医療の現実を知る。

病院とすったもんだし窓際族として過ごす。2013年に精神科訪問看護ステーションKAZOC (かぞっく) を開設。同時にホームレス支援をするハウジングファースト東京プロジェクトに参加。ホームレス状態を経験した人の中で、精神疾患を持った人たちの在宅生活を維持継続する役割を担っている。

◆ 野村 恭代氏 (大阪市立大学大学院生活科学研究科准教授)

精神保健福祉士。社会福祉士。専門社会調査士。医療法人に勤務中、生活のしづらさのある人の住まいに対する「施設コンフリクト」を知る。解決策が見出せないため自身で研究することに。著作に『精神障害者施設におけるコンフリクト・マネジメントの手法と実践ー地域住民との合意形成に向けてー』(明石書店、2013年) などがある。

